

CENTER FOR INTERNATIONAL EXCHANGE



国際交流センター長からのご挨拶

このたび、昭和女子大学国際交流センター（Center for International Exchange：CIE）では、学内外の皆様向けにその活動を広く紹介させていただくために、初めてのニュースレターを発行する運びとなりました。「今さらどうして？」と思われる方もいらっしゃると思いますが、海外派遣プログラムから始まり、国内の国際交流プログラム、外国人留学生のためのプログラムなど、多岐にわたるCIEの活動の全体像をご存じの方はそれほど多くありません。普段からCIEをよくご存じの教職員の皆様も、そうでない皆様も、CIEの活動をご理解いただくための一助としていただければ幸いです。

「プログラム」ということばは、CIEの中でたいへんよく使われています。一般に、教育活動の中でのプログラムとは、学位課程のような体系化された教育課程である「カリキュラム」と異なり、それよりも小さい単位でまとめられた教育活動というイメージがあります。多くの場合、期間が限定されていて、かつ一定の教育目的に特化されたものとされていますが、1週間程度の海外研修プログラムもあれば、2年間のダブルディグリープログラムもあります。また、正課科目としてのものもあれば、正課外のもの、あるいは正課科目と正課外活動を組み合わせたものもあります。

このように「プログラム」にはさまざまな意味合いがありますが、いずれも大学が提供している教育活動であり、カリキュラムの一部あるいはそれを補うものとして、多様な教育機会を提供する重要な役割があることが共通しています。CIEでは、そのひとつひとつのプログラム毎に担当が付き、対象となる学生やプログラムの特性を踏まえ、企画から募集、プログラムに係る関係各署との調整とプログラム運営、そして振り返りを日々実施しています。

海外派遣プログラムを例にとると、本学では年間910名の学生が参加しています（次項掲載 2024年度実績）。これは全学生の約15%に相当し、日本の大学では極めて高い参加比率ですが、それでも経済的な理由、カリキュラム上

の理由、家庭の事情など、さまざまな理由で残りの大半の学生は海外での学習機会がなかったことを意味します。こうした学生にもグローバル教育の機会を提供するために、学内で行う国際交流プログラム、オンラインプログラム、4年間を通じて体系的にグローバルな力を養うS-GLAPなど、海外渡航を伴わない多くのプログラムを開発してきました。

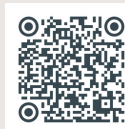
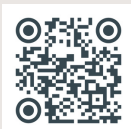
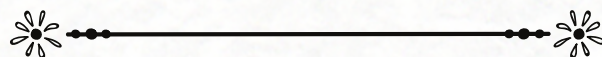
さらに、学内の国際交流プログラムを活発に行うためには、TUIや外国人留学生の存在が重要です。とくに後者は、交流パートナーとしてだけでなく、国際共修型の授業やプロジェクト活動等のプログラムを通じて、ともに学び合うことによって互いに大きな刺激を与え合うことが期待されます。そのため、本学では海外の大学や高校と協定を結び、多くの優秀な留学生を迎え入れる取り組みを進めています。

このように、CIEでは学内のさまざまな部署と連携しながら、「グローバル教育の昭和女子大学」を支えるために、正課・正課外に関わらず多彩なプログラムを提供しています。本学に所属するすべての学生が、国内外の多様な社会の中でグローバルに生きる力を養うことができるよう、CIEの取組みを少しでも多くの方に知っていただき、ともに活動していけることを願っています。

国際交流センター センター長 山崎 真伸

目次

- メッセージ・表紙
- 海外への派遣留学…P.2
- 外国人留学生…P.3
- 交流プログラム及びその他の取り組み…P.4



1. 海外への派遣留学

Outbound

■2024年度派遣実績

派遣留学プログラムに910名が参加 ～新たな協定校への派遣実績も～

2024年度は、長期・短期あわせて910名の学生が派遣留学プログラムに参加しました（長期：488名、短期：422名）。交換認定留学では、従来の協定校に加え、新たにベルギー、ルーマニア、マレーシアの協定校への派遣も実現し、渡航先の拡大が進みました。また、各学科が主催する短期の海外研修を含め、年間を通じて合計60のプログラムを展開。テンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）とのダブルディグリープログラムと単位互換プログラムには45名が参加、本学のボストンキャンパスには470名が留学し、学生の多様な学びのニーズに応える充実した留学機会を提供しました。

2024年度派遣実績（交換・私費認定留学） ～正規学部授業科目を学ぶ～

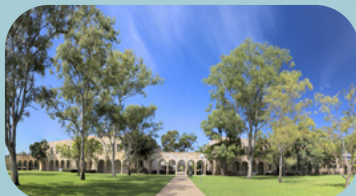
協定校	人数	協定校名	人数
ノーサンプトン大学 / 英国	1名	エンディコット大学 / 米国	3名
ヴィータウタス・マグナス大学 / リトアニア	1名	クイーンズランド大学 / 豪州	1名
ヴェネツィア大学 / イタリア	3名	タマサート大学 / タイ	1名
サビエンツァ・ローマ大学 / イタリア	2名	マラヤ大学 / マレーシア	1名
トリノ大学 / イタリア	1名	ソウル女子大学校 / 韓国	1名
ゲント大学 / ベルギー	2名	東海大学 / 台湾	2名
ワルシャワ大学 / ポーランド	1名	カーン・ノルマンディー大学 / フランス	※ 10名
ブカレスト大学 / ルーマニア	1名	ライプツィヒ大学附属ドイツ語学校 / ドイツ	※ 2名

- 国際学科のカリキュラム留学による認定留学を除く
- 私費認定留学は一部語科目のみの履修の認定留学も含む

※＝私費認定留学

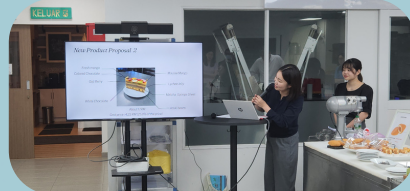
■新規ダブル・ディグリー・プログラム(DDP)

2021年度入学の国際学部学生から、オーストラリア・クイーンズランド大学（UQ）とのDDPがスタートしました。その第1期生の2名が、2024年12月に晴れてUQを卒業しました。現在2名は2025年度中の本学卒業を目指して履修を進めています。UQは世界大学ランキングで常にトップ100に入る名門大学です。2年間、現地の学生と肩を並べて学んできた経験を活かし、グローバルな世界を舞台に活躍されることを願っています。



■海外インターンプログラム開発

CIEでは、長期休暇中に学生が興味関心に合ったインターンシップ先を選択できる、「海外インターンシッププログラム」を実施しています。例えば、2024年度夏季の食品会社（マレーシア）でのインターンシップでは、市場調査や商品開発に携わり、社内関係者へ新商品の提案を行いました。グローバルな環境で業務に従事することで、将来のビジョンの明確化やグローバル社会で働くためのスキルを磨くことができます。



職員・学生のひとこと

派遣担当/ 泉 麻由 オリエンテーションを通して

留学プログラムの実施には、多くの準備や調整が必要です。例えばボストン留学では、每期100名以上の学生を対象に全8回程度渡航準備のためのオリエンテーションを行っています。渡航準備は煩雑な手続きが多いイメージをもつ学生が多いので、学生が安心して積極的に渡航準備に取り組めるよう、説明の順番やスピードなどを工夫して、より分かりやすく伝える方法を日々試行錯誤しています。一方、学生には分からないことは質問するという基本的なスキルも渡航準備の中でぜひ身に付けて欲しいと思い、指導しています。職員にとっては每期繰り返される手続きでも、学生にとっては一生に一度の大きな経験です。だからこそ、準備段階も含め、留学が学生の成長に繋がるよう、丁寧な対応を心がけていきたいと思っています。

ビジネスデザイン学科4年 中村 紗也香



国際的な視野を広げたいという思いから、CIEや所属学科を通して全部で8以上の留学や交流プログラムに参加しました。語学力や異文化理解を深める言語交流やカリキュラム留学をはじめ、ビジネスコンテストやリーダーシップ研修など、学年を重ねるごとに挑戦の幅を広げました。交流や実践を通して、英語で考え発信する力、多様性を尊重して行動する力が身についたと実感しています。CIEの丁寧なサポートのおかげで、常に新たな挑戦に踏み出すことができました。

<参加派遣プログラム>

2023年度前期 昭和ボストンプログラム：Biz23（半年間）
2024年度後期 ヴィータウタス・マグナス大学交換認定留学（半年間）
2024年度春季 ロイヤルローズ大学リーダーシップアカデミー（2週間）

<参加国内交流プログラム>

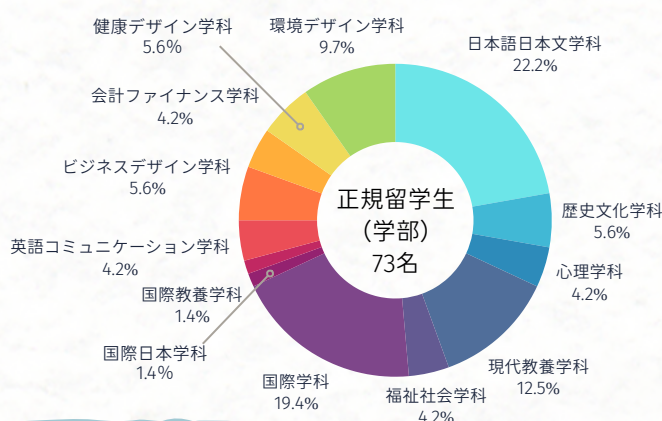
2022年度前期／後期 Power English（英語学習）
2022年度前期 にほんごサポーター
2024年度前期 BAA（BAAからの来日学生との交流：2週間）
2024年度前期 SSIP（海外協定校の学生との国際共修授業：3週間）
2024年度前期 SWU-Colorado Joint Program（COILプログラム：約3カ月）

■2025年度前期の外国人留学生と2024年度受入実績

正規留学生、過去最大の108名が在籍
～多様な制度による受け入れで内なる国際化を加速～

2025年度は、正規留学生が過去最大の108名（学部生73名、大学院生35名）でスタートしました。2024年度は年間で202名の外国人留学生を受け入れ、内訳は、正規留学生76名、特別留学生78名、特定外国人科目履修生9名、特定外国人研究生1名、そして短期プログラム学生が38名でした。イタリア、ポーランド、オーストラリア、ベトナム等多様な国からの交換留学生が参加し、キャンパスの国際化に寄与しました。また、「Showa Direct 4.5」により海外の提携高校等から直接留学生を新入生として受け入れ、半年の日本語集中学習を経て4.5年間で学位取得を目指すプログラムも新たに始まり、留学生が学ぶための入り口や手段はますます広がりをみせています。さらに、本学大学院への進学希望を前提に、学部授業の科目履修ができる「大学院進学準備留学生」には、過去最多となる8名が参加。この制度を活用して本学大学院に進学し、現在も在籍する留学生は10名に上ります。（2025年4月時点）

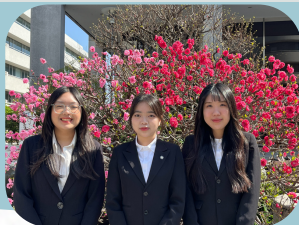
2025年度 正規学部留学生 所属内訳



■Direct4.5プログラム 1期生入学

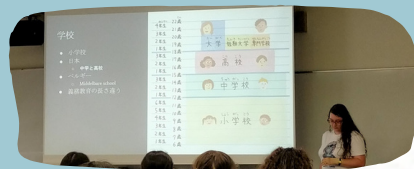
2024年10月に入学した「Showa Direct 4.5」1期生の3人が、今年4月から食健康科学部健康デザイン学科の正規課程の履修を本格的にスタートさせました。これまでの少人数でアカデミックな日本語を集中的に学んでいた授業とは異なり、日本人学生と共に大教室で学ぶ専門的な授業に戸惑いはありながらも、持ち前の明るさと勤勉さで頑張っています。

今年度後期には、2期生となる7名が3学科に入学予定です。後輩の良い手本となるような、一層の成長を期待しています。



■授業のひとこま

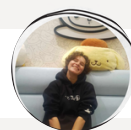
「コンテンツで学ぶ日本語／Intermediate Japanese F・G」の授業では、各国の協定大学からきた交換留学生が日本の多様な文化や社会について学びを深めています。「日本と母国の教育の違い」をテーマにしたプレゼンテーションでは、日本と母国の教育制度を比較し、それぞれの良い点や課題を分析して発表しました。例えば、「日本とイタリアの小学校の違い」では、日本の「家庭科・生活・道徳」のような授業がイタリアでは珍しく、子どもの自立を促すために導入を検討すべきというユニークな提案もありました。他にも、大学の入試制度や義務教育システムなど、様々な比較が行われ、非常に興味深い発表が続きました。難しい質問にも、聞き返したり自分の言葉で伝えようと努める留学生の姿には、大きな成長が見られました。

受入担当/ 大城 萌子
留学生の成長と私

私は、協定大学からのセメスター留学で来日する留学生の受入を担当しています。ヨーロッパや東南アジアなど、毎学期様々な国・地域からの学生を受け入れています。

世界中から集まる学生たちは、勉強だけでなくインターンシップやプロジェクト活動などにもとても積極的で、「学びたい!」という気持ちが本当に強く、そのような学生一人ひとりの成長を間近で支援できることに大きなやりがいを感じています。

ホストファミリープログラムや国際共修の授業など、学生の声をもとに環境を整えていくのも私たちの仕事。留学は楽しいことばかりではないけれど、言葉や文化の壁を越えて成長していく学生の姿に立ち会えるのは、何にも代えがたい喜びです。「一生の宝物になった」そんな声が、私たちの何よりの原動力です。

パワラク・マノン（交換留学生）
/カーン・ノルマンディー大学

私は日本語のみの環境でチャレンジしたかったので、昭和女子大学を留学先を選びました。日本留学前は不安がありましたが、ホストシスター、ホストファミリー、CHAWA、剣道部など、いろいろな人と交流できており、とても幸せを感じています。日本での生活で困った際にはホストシスターやホストファミリーが助けてくれます。例えば、スーパーでどの品種のお米を買うべきかわからなかった際、ホストファミリーがおすすめるのお米を教えてくださいました。授業はどれも面白く、特に「日本事情A」がお気に入りです。日本人学生と留学生が、日本の社会問題についてディスカッションするのですが、国や地域ごとの違いがわかり、興味深いです。最近では少子化をテーマに話しました。残りの留学生生活も、人との交流をさらに広げながら、より充実した日々を送りたいです。

3. 学内交流プログラム

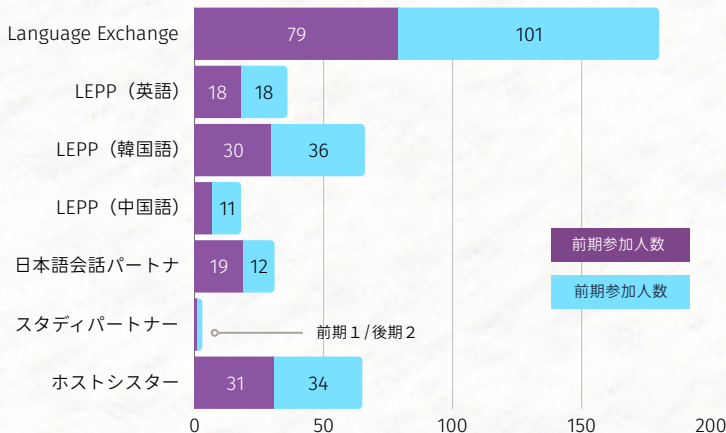
Global Education Center

2024年度学内交流プログラム実績

397名が言語交流プログラムや留学生サポートに参加

2024年度は、397名の学生が各種留学生支援・学習交流プログラムに参加しました（前期：185名、後期：212名）。これらは主に7種類のプログラムで構成され、語学力向上や異文化交流の貴重な機会となっています。

なかでも、Language Exchange（LEX）では136組ものペアがテンブル大学ジャパンキャンパス（TJ）の学生と1対1の言語交流を行いました、お互いに母語を教え合うことで相互理解を深めることができました。また、Language Exchange Partner Program（LEPP）には120名が参加し、海外の協定校の学生と、日本語および英語・中国語・韓国語などの指定言語を使ってオンラインで交流します。国境を越えた対話を通して、語学力だけでなく、異文化理解や国際的な視野も養うことができました。



交流プログラム体験談

2024年度に Language Exchange（LEX）に参加しました。パートナーはテンブル大学ジャパンキャンパス（TJ）の学生で、週1回1時間、日本語と英語を半分ずつ使って言語交流をしました。活動内容を通して英語を聞く力・話す力が伸び、ネイティブが使う日常会話の表現も身につけることができました。同時期にはほんごサポーターとして、留学生向け日本語授業のサポートも経験しました。授業を通してこれまで気づけなかった日本の魅力を再発見でき、留学生の日本語力の成長を感じる中で、達成感を得ることができました。（国際学科2年 吉田）



CHAWA活動

CIEに所属する国際交流グループCHAWA（茶輪）は、留学生を含む学生間の異文化理解や交流を目的として、イベントの企画・運営を行う団体です。学生主体で月1～2回、日本の季節や文化を体験できるイベントを開催しています。交流中は主に日本語を使います。2024年度は、学内でランチ交流会をしたり、浴衣を着て浅草観光を楽しむお出かけイベントを開催しました。参加した留学生からは「日本人の友達を作ることができて嬉しい」との声を貰っています。



4. その他の取り組み

海外訪問団 受入実績・教職員交流

世界各地から多様な訪問者が来校

2024年度は、年間30件を超える海外からの訪問団や訪問者が本学キャンパスを訪れ、訪問団の受け入れは本学学生にとっても貴重な異文化体験の機会となりました。

その他にも、坂東フェロウシップや海外協定校研究者招聘プログラムを通じて研究者を受け入れ、さらにはエラスムス+の協定を用いて、イタリアとリトアニアの協定校で行われた国際交流分野の職員を対象とした研修プログラムに本学より初めて職員を派遣しました。

<訪問団一例>

Endicott College（米国）、Southern Methodist University（米国）、University of Colorado at Boulder（米国）、BAA（デンマーク）、Univeristy of Turin（イタリア）、The University of Queensland（豪州）、南洋理工大学（シンガポール）、Universitas Gadjah Mada（インドネシア）、上海交通大学（中国）、漢陽女子大学（韓国）など

<その他の交流実績>

坂東フェロウシップ受入2名、研究者招聘3名、SD研修へ職員派遣2名

新規協定校

私費認定留学生の拡大

～ボストン留学後の進路に新たな可能性を～

2024年度は、新たに以下4大学との派遣協定を締結しました。米国の協定校が増えたことで、昭和ボストンへの留学後の選択肢として「私費認定留学」が、より在学生にとってだけでなく、入学希望者にとっても身近に感じてもらえることを期待しています。多様な協定校での英語による授業履修は、さらなる英語スキルの向上と異文化体験の機会となるはずです。

大学名	国／地域	主なプログラム
カリフォルニア大学リバーサイド校 エクステンション	米国	私費認定留学プログラム
ボストン大学	米国	私費認定留学プログラム
カリフォルニア大学デービス校	米国	私費認定留学プログラム
サンディエゴ州立大学	米国	私費認定留学プログラム